

FutureNet **MA-E300**シリーズ ユーザーズガイド

Ver. 1. 1. 0



目次

はじめに	4
第1章 FutureNet MA-E300 シリーズの概要	6
1.1. FutureNet MA-E300 シリーズの特徴	7
1.2. 外観 (MA-E320)	9
1.3. 外観 (MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16)	10
1.4. 製品仕様	12
第2章 本装置の設置について	13
2.1. 装置の設置に関する注意点	14
2.2. 各部の名称と機能 (MA-E320)	15
2.3. 各部の名称と機能 (MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16)	17
2.4. 装置の設置例	19
2.5. CONFIG DIP スイッチ	21
2.6. RS-232C インタフェース	22
2.7. RS-485 インタフェース	23
2.8. LED	25
2.9. DIO	26
第3章 本装置へのログイン	29
3.1. コンソールによるログイン	30
3.2. SSH によるログイン	32
第4章 システムの起動・終了	33
4.1. システムの起動	34
4.2. システムの終了	35
4.2.1. INIT ボタンによるシャットダウン	35
4.2.2. コマンド実行によるシャットダウン	35
第5章 設定について	36
5.1. 出荷時設定情報	37
5.2. 設定の初期化	38
5.2.1. 工場出荷状態での起動	38
5.2.2. 変更内容の消去	38
第6章 ファームウェア更新	39
6.1. ファームウェアについて	40
6.1.1. ファームウェアバージョン確認	40
6.1.2. 起動ファームウェアの切り替え	41
6.2. ファームウェア更新	42

6.2.1.	SD カードを使用したファームウェア更新	42
6.2.2.	ファイル転送によるファームウェア更新	44
6.3.	ファームウェア作成	46

はじめに

このたびは本製品をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書には、本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。ご使用前に本書をよくお読みになり、正しくお使いいただけますようお願い致します。

特に、本製品に添付されている「安全にお使いいただくために」をよく読み、理解されたうえで本製品をご使用ください。

また、本書は本製品の使用中、いつでも参照できるように大切に保管してください。

◆ ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で転用、転載しないようお願いいたします。
2. 本書の内容および製品仕様、外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
3. 本書の作成にあたっては万全を期しておりますが、本書の内容の誤りや省略に対して、また本書の適用の結果生じた間接損害を含め、いかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 製品の保証に関する規定については製品添付の製品保証書をご覧ください。
5. 本製品にて提供されるファームウェアおよび本製品用として弊社より提供される更新用ファームウェアを、本製品に組み込んで使用する以外の方法で使用することは一切許可しておりません。

◆ セキュリティの確保について

パスワードを設定しない、もしくはデフォルトパスワードを使用する場合、ネットワーク上の誰からでも本装置の設定を行うことができます。

セキュリティの面からは非常に危険なため、ユニークなパスワードを設定することを強く推奨します。

◆ **最新情報の入手について**

弊社ホームページにて、製品の最新ファームウェア・マニュアル・製品情報を掲載しています。

下記の FutureNet サポートページから、該当する製品名をクリックしてください。

FutureNet サポートページ

<http://www.centurysys.co.jp/support/>

また開発者向け情報も掲載しておりますので、是非ご覧ください。

開発者向け情報提供サイト MA-E/SA Developers' Wiki

<http://ma-tech.centurysys.jp/doku.php>

◆ **商標について**

- 「FutureNet」はセンチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。
- Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他文中のの商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

第 1 章

FutureNet MA-E300 シリーズの概要

第1章 FutureNet MA-E300 シリーズの概要

1.1. FutureNet MA-E300 シリーズの特徴

◆ M2M 向け小型 Linux Server

MA-E300 シリーズは OS として Linux カーネル 3.13.x を採用した M2M 向け小型 Linux Server です。Ubuntu がプリインストールされているため、標準的な Linux の操作方法で、オープンソースで提供されている Linux の各種アプリケーションが利用できます。

◆ Java SE Embedded 8 を標準搭載

組込用「Java SE Embedded 8」の実行環境を標準で搭載しています。PC から MA シリーズへの Java アプリケーションの移行が簡単に実現できます。

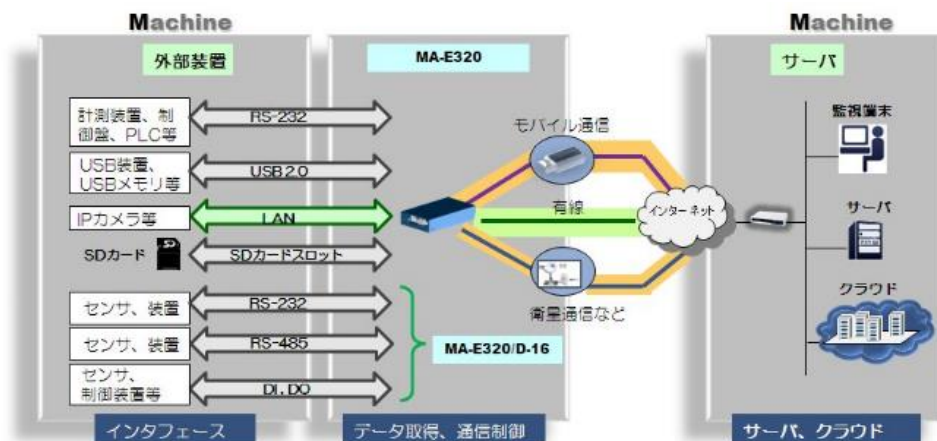
◆ 強力なネットワーク機能

2 つのギガビットイーサネットインタフェースを備え、高いネットワーク性能を持ちます。USB ポートを 1 ポート備えており各種モバイル通信端末の接続に利用できます。

◆ 低消費電力、高性能、高信頼性、耐環境性

省電力 CPU や電源回路の最適化により、待機時約 2.1W という低消費電力を実現しています。無人の環境や屋外での利用を想定し、ファンなどの可動部品を使用しないことにより高信頼性を確保し、24 時間 365 日の常時稼働と -20°C~60°C (AC アダプタを除く) での動作保証を実現しています。

■ FutureNet MA-E300 シリーズ利用イメージ



第1章 FutureNet MA-E300 シリーズの概要

1.1. FutureNet MA-E300 シリーズの特徴

◆ 開発の容易さ、開発工数の短縮

FutureNet MA シリーズのソフトウェアは、標準提供の開発環境（SDK）を使ってアプリケーションの移植や新規開発、ファームウェアのカスタマイズ等が柔軟におこなえます。

またLinux用の開発環境を用意することなく、FutureNet MA-E300 シリーズ本体のみでファームウェアの作成が可能です。

◆ 海外対応

東南アジア、ヨーロッパ、北米向けを中心に各国の安全規制への対応を順次進めています。これにより海外拠点を含めたネットワーク構築にも対応できるようになります。

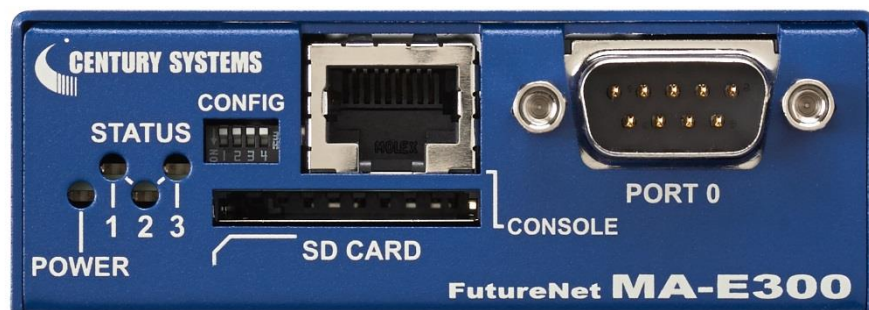
第1章 本装置の概要

1.2 外観 (MA-E320)

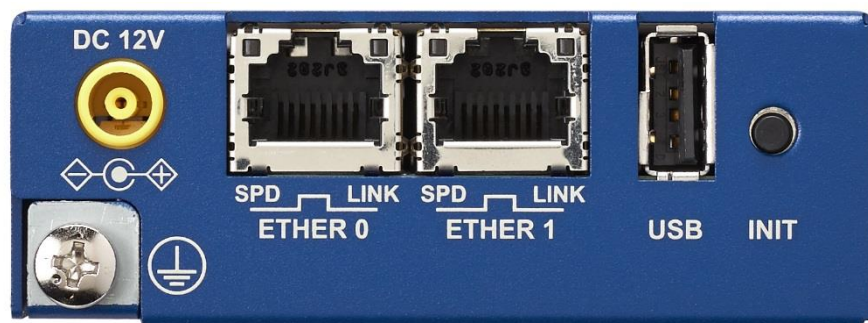
◆ MA-E320 上面



◆ MA-E320 前面



◆ MA-E320 背面



第1章 本装置の概要

1.3 外観 (MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16)

◆ MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16 上面



◆ MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16 前面



第1章 本装置の概要

1.3 外観 (MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16)

◆ MA-E320/D-16 背面



◆ MA-E350/FD-16 背面



第1章 本装置の概要

1.4 製品仕様

製品名		MA-E320	MA-E320/D-16	MA-E350/FD-16
CPU		テキサスインスツルメンツ社 Sitara AM3352 (ARM Cortex-A8 core) 1GHz (300MHz~1GHz 動的切り替え対応)		
メモリ構成		NAND FLASH 256MB、DRAM 512MB、NOR FLASH 2MB、 EEPROM 2kByte DRAMは最大 1GB まで拡張可能		
インタ フェース	イーサ ネット	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T × 2ポート RJ-45 コネクタ、Auto Negotiation、Full/Half Duplex、Auto MDI/MDIX		
	WAN	USB データ通信アダプタ ※ USB ポート利用		FOMA 通信モジュール
	シリアル	RS-232 (Dsub9) × 1 (※RS-485への変更可) RS-232 (RJ-45) × 1	RS-232 (Dsub9) × 2 RS-485 (Dsub9) × 1 RS-232 (RJ-45) × 1	
	USB	USB 2.0 ホスト × 1ポート (TYPE-A コネクタ)、内部インタフェース × 1ポート		
	デジタル 入出力	なし	接点入力 × 8、接点出力 × 8 ※フォトカプラ絶縁型	
SD カードスロット		SDHC対応 SDカード 1スロット ※ SDメモ리카ードに対応		
基本ソフトウ ェア	OS	Linux (Kernel 3.14 以降)		
	起動方法	FLASH ROM boot、SD boot、USB boot		
	PPP 接続	○		
運用管理	設定手段	Linux ログイン (シェル)、SSH		
	ファームウ ェア 更新	○		
	ログ監視	SYSLOG(rsyslog)による監視		
	その他	DHCP サーバ、時刻設定、NTP クライアント/サーバ		
サイズ	外観寸法(突 起物を除く)	81.0 mm [W] x 137.0 mm [D] x 28.7 mm [H]		174.0 mm [W] x 137.0 mm [D] x 37.3 mm [H]
環境	使用電源 電源形状	DC +12V ※ DC ジャック (AC アダプタ)	DC +12V ※ DC ジャック (AC アダプタ) または 3pin ネジ止め式 コネクタ	
	本体動作 条件	-20°C~60°C、10%~90% (結露なきこと)		

第 2 章

本装置の設置について

第2章 本装置の設置について

2.1 各部の名称と機能



注意！

本装置は直射日光が当たるところや、温度の高いところには設置しないようにしてください。
内部温度が上がり、動作が不安定になる場合があります。

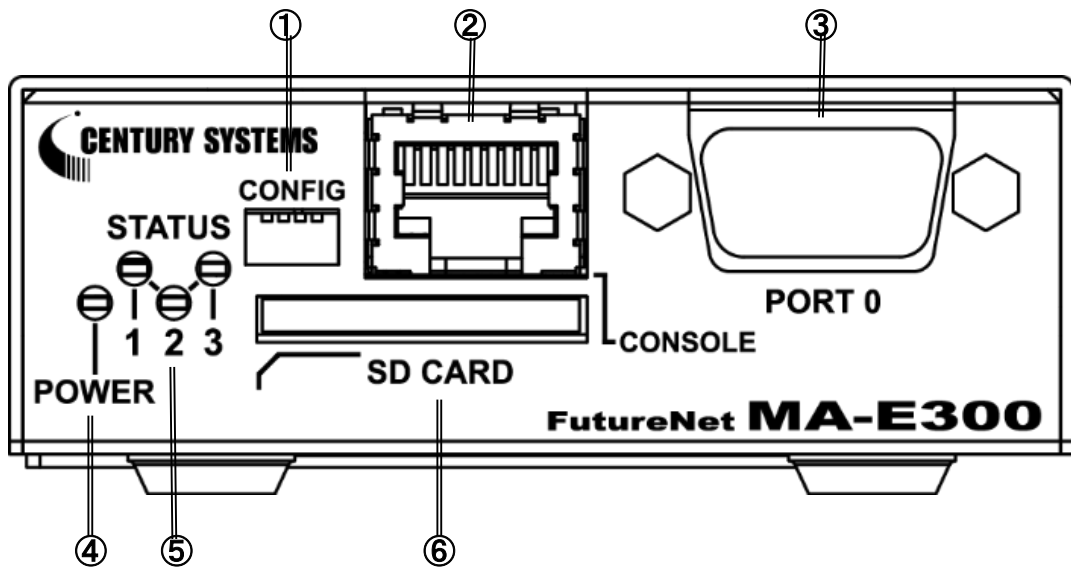


注意！

AC アダプタのプラグを本体に差し込んだ後に AC アダプタのケーブルを左右および上下に引っ張らず、緩みがある状態にしてください。
抜き差しもケーブルを引っ張らず、コネクタを持って行ってください。
また、AC アダプタのケーブルを足などで引っ掛けてプラグ部に異常な力が掛からないように配線にご注意ください。

2.2 各部の名称と機能 (MA-E320)

◆ MA-E320 : 前面



① **CONFIG**
本装置の動作モードを設定する DIP スイッチ
です。

② **CONSOLE**
コンソール接続に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを使用します。

③ **PORT0 ポート**
DTE 対応の RS-232C ポートです。

④ **POWER LED**
本装置の電源状態を示します。
電源 ON 時 : 点灯

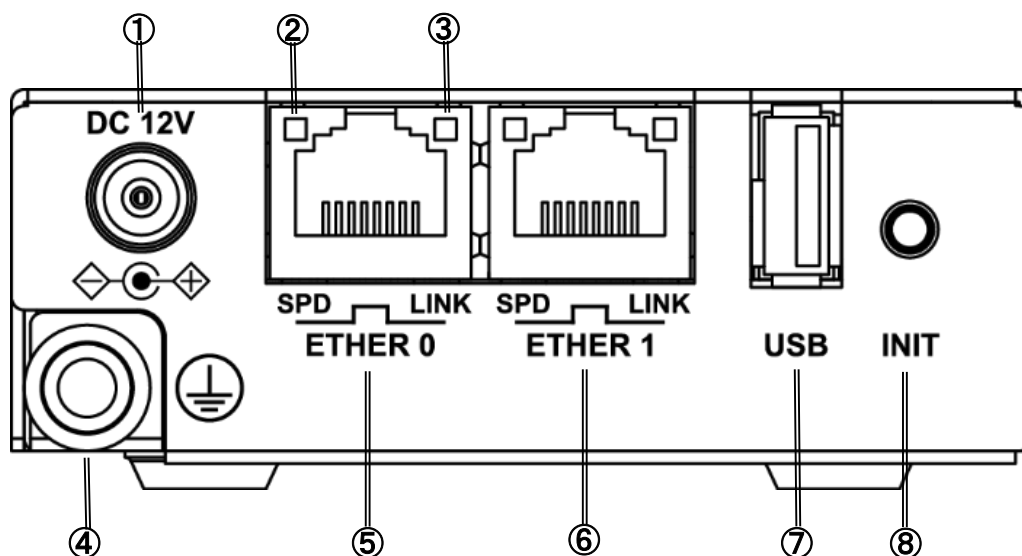
⑤ **STATUS LED**
本装置の動作状態を示します。

⑥ **SD カード**
SD/SDHC のメモ리카ードを挿入します。

第2章 本装置の設置について

2.2 各部の名称と機能(MA-E320)

◆ MA-E320 : 背面

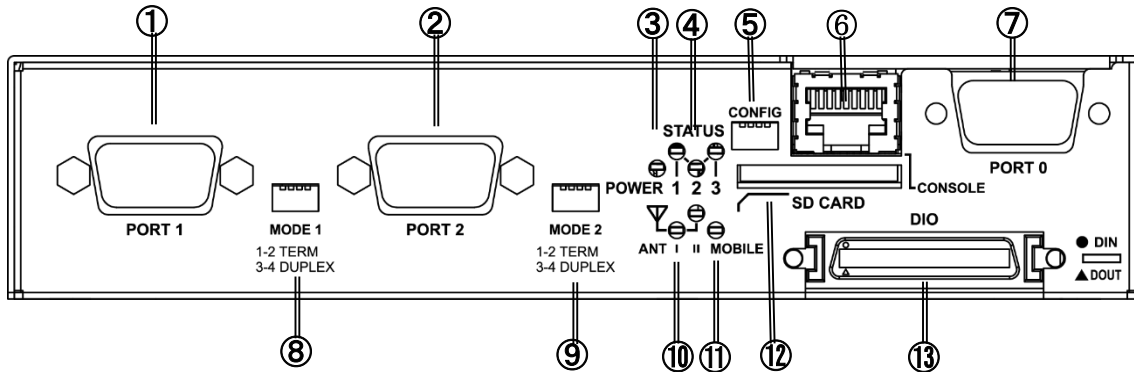


- ① DC12V 電源コネクタ
製品付属の AC アダプタを接続します。
- ② SPD LED
ETHER ポートの接続速度を示します。
10BASE-T モードで接続時 : 消灯
100BASE-TX モードで接続時 : 緑点灯
1000BASE-T モードで接続時 : 橙点灯
- ③ LINK LED
ETHER ポートの LINK 状態を示します。
Link Down 時 : 消灯
Link Up 時 : 点灯
- ④ FG(アース)端子
保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。
- ⑤ ETHER0 ポート/ ⑥ ETHER1 ポート
10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。
- ⑦ USB ポート
USB Flash メモリ、USB タイプのデータ通信端末等を挿入します。
- ⑧ INIT
本装置のシャットダウン及び、工場出荷時の設定に戻して起動する場合に使用します。

第2章 本装置の設置について

2.3 各部の名称と機能 (MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16)

◆ MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16：前面



① PORT1 ポート

DTE 対応の RS-232C ポートです。

② PORT2 ポート

DTE 対応の RS-485 ポートです。

③ POWER LED

本装置の電源状態を示します。
電源 ON 時 : 点灯

④ STATUS LED

本装置の動作状態を示します。

⑤ CONFIG

本装置の動作モードを設定する DIP スイッチです。

⑥ CONSOLE

コンソール接続に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを使用します。

⑦ PORT0 ポート

DTE 対応の RS-232C ポートです。

⑧ MODE1 / ⑨ MODE2

PORT1、PORT2 のターミネーションと DUPLEX モードを設定する DIP スイッチです。

⑩ ANT LED

通信モジュールの電波強度を示します。

⑪ MOBILE LED

通信モジュールの状態を示します。
MA-E350/FD-16 で使用します。

⑫ SD CARD

SD/SDHC のメモ리카ードを挿入します。

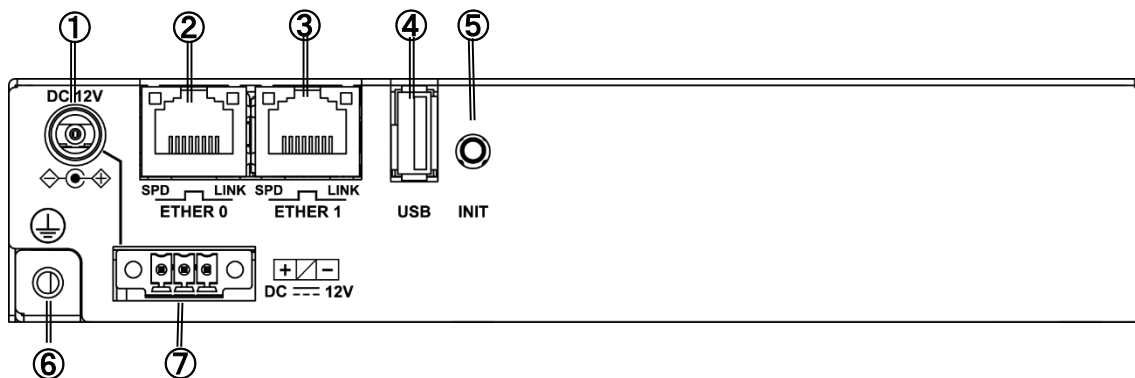
⑬ DIO

DI 接点入力が 8 チャンネル、DO 接点出力が 8 チャンネル使用できます。

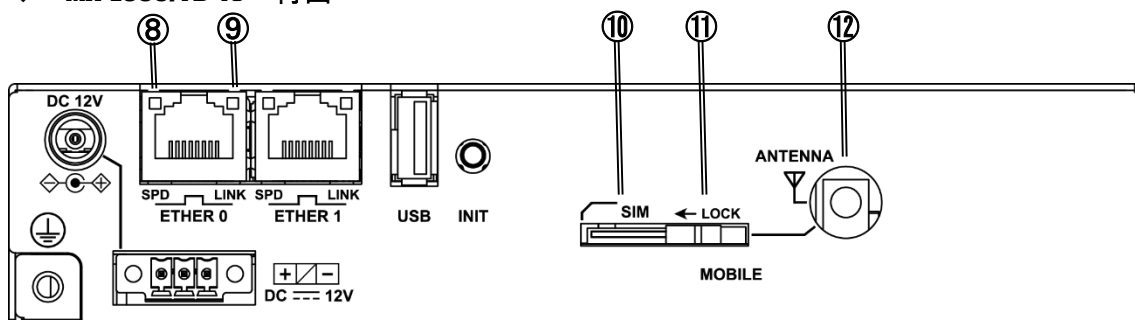
第2章 本装置の設置について

2.3 各部の名称と機能 (MA-E320/D-16 ・ MA-E350/FD-16)

◆ MA-E320/D-16 : 背面



◆ MA-E350/FD-16 : 背面



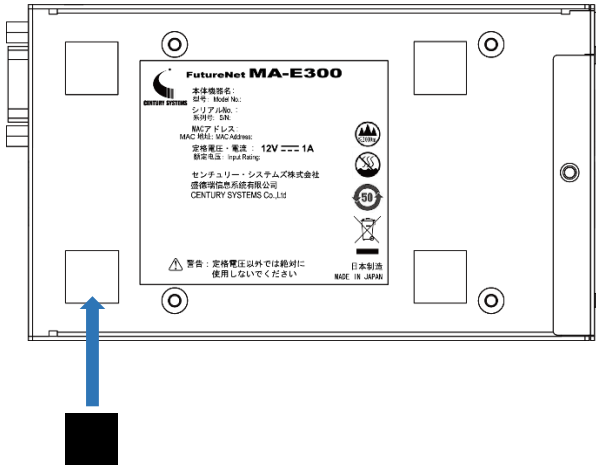
- ① **DC12V 電源コネクタ**
製品付属の AC アダプタを接続します。
- ② **ETHER0 ポート/ ③ ETHER1 ポート**
10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。
- ④ **USB ポート**
USB Flash メモリ、USB タイプのデータ通信端末等を挿入します。
- ⑤ **INIT**
本装置のシャットダウン及び、工場出荷時の設定に戻して起動する場合に使用します。
- ⑥ **FG(アース)端子**
保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。
- ⑦ **DC12V 3pin ネジ止め式コネクタ**
付属のスプリングコンタクト式端子台を接続します。
- ⑧ **SPD LED**
ETHER ポートの接続速度を示します。
10BASE-T モードで接続時 : 消灯
100BASE-TX モードで接続時 : 緑点灯
1000BASE-T モードで接続時 : 橙点灯
- ⑨ **LINK LED**
ETHER ポートの LINK 状態を示します。
Link Down 時 : 消灯
Link Up 時 : 点灯
- ⑩ **SIM カードスロット**
SIM カードを挿入します。
- ⑪ **LOCK**
スライドすることによって SIM カードをロックします。
- ⑫ **ANTENNA**
対応するアンテナ(オプション)を装着します。

第2章 本装置の設置について

2.4 装置の設置例

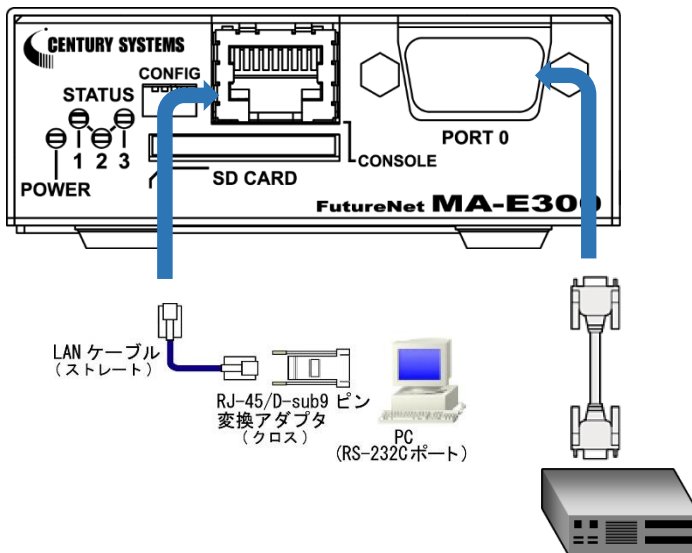
1. 本装置の底面に付属のゴム足を貼り付けます。

■ 底面



2. 本装置前面の CONSOLE ポートと、変換アダプタ¹を LAN ケーブルで接続し PC と接続します。
3. 本装置前面の PORT0 と計測装置、センサ等のシリアル通対象機器を RS-232C ケーブルで接続します。

■ 前面



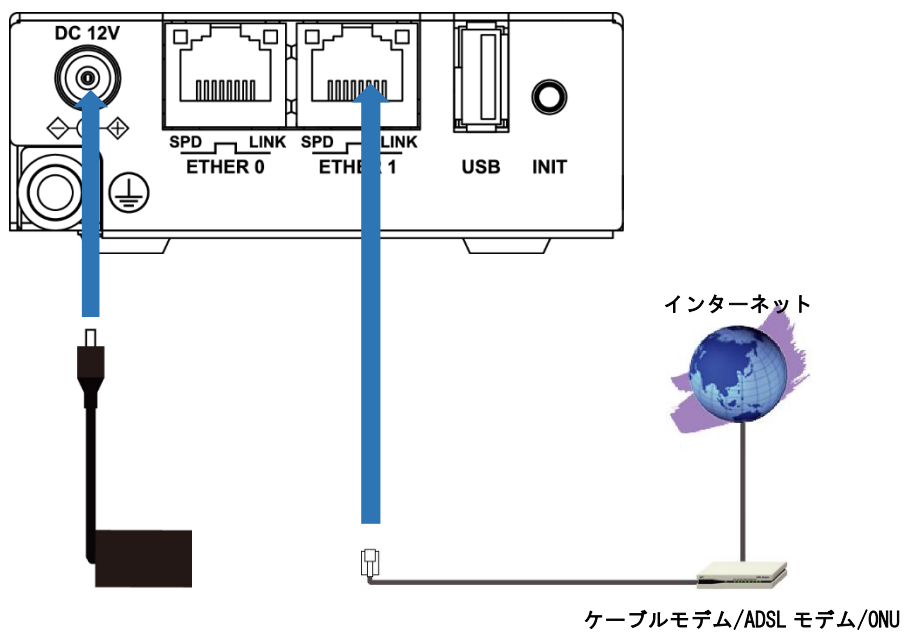
¹ RJ-45/D-sub9 ピン変換アダプタは別売りです。

第2章 本装置の設置について

2.4 装置の設置例

- ETHER1 ポートとネットワークを接続します。
- DC コネクタと AC アダプタ AC アダプタとコンセントを接続します

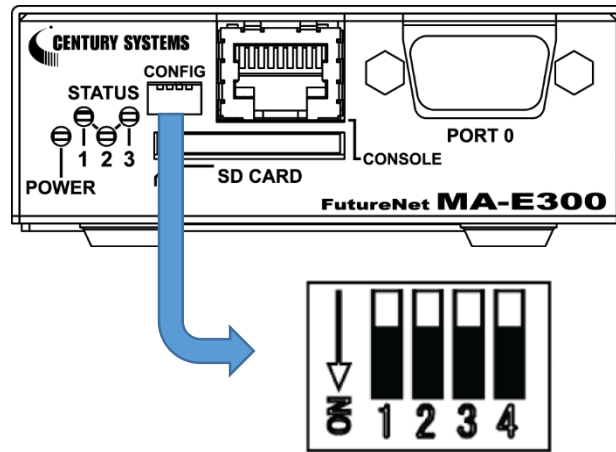
■ 背面



第2章 本装置の設置について

2.5 CONFIG DIP スイッチ

本装置の CONFIG を切り替えることにより、コンソールや起動モードを変更することができます。
スイッチは向かって左から順に 1, 2, 3, 4 の番号が割り当てられています。



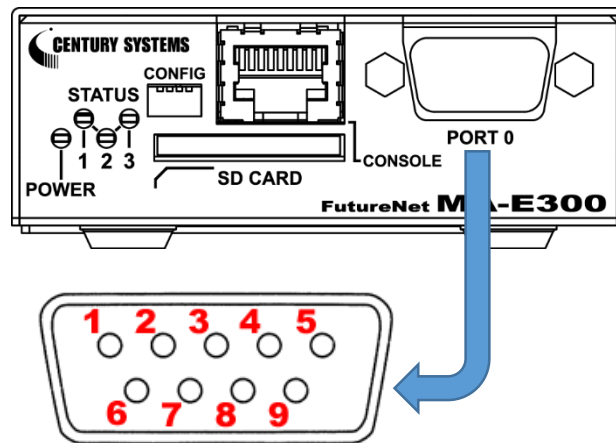
DIP スイッチ				動作モード
1	2	3	4	
OFF	OFF	-	OFF	通常起動 (切り戻し有) ¹
ON	OFF	-	OFF	通常起動 (切り戻し無し)
OFF	ON	-	OFF	USB 起動 (/dev/sda1)
ON	ON	-	OFF	ブートローダーメニュー
-	-	-	ON	SD カード起動
-	-	OFF	-	コンソールポートを CONSOLE (RJ-45) に設定
-	-	ON	-	コンソールポートを PORT0 (DSUB-9) に設定

¹ WatchDogTimer により起動を監視し、起動しなかった場合、別の面のファームウェアで起動します。

第2章 本装置の設置について

2.6 RS-232C インタフェース

本装置には DTE 対応の RS-232C ポートが装備されています。最大ボーレートは、230.4kbps です。コネクタのピン・アサインは下記の通りです。



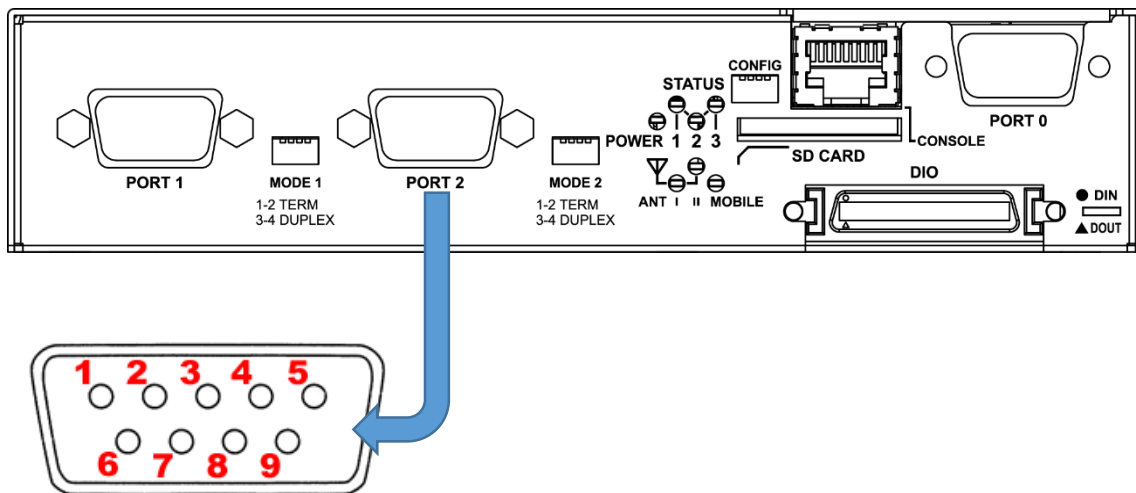
番号	信号名	タイプ	説明
1	DCD	I	受信キャリア検出
2	RXD	I	受信データ
3	TXD	O	送信データ
4	DTR	O	データ端末レディ
5	GND	P	信号グラウンド
6	DSR	I	データセットレディ
7	RTS	O	送信要求
8	CTS	I	送信可能
9	RI	I	被呼表示

※ タイプの” I ” は入力, ” O ” は出力, ” P ” は電源を表しています

第2章 本装置の設置について

2.7 RS-485 インタフェース

MA-E320/D-16・**MA-E350/FD-16** には DTE 対応の RS-485 ポートが装備されています。最大ボーレートは、230.4kbps です。コネクタのピン・アサインは下記の通りです。



番号	信号名	タイプ	説明
1	GND	P	信号グラウンド
2	—		
3	—		
4	RXD+	I	受信データ
5	RXD-	I	受信データ
6	—		
7	—		
8	TXD+	O	送信データ
9	TXD-	O	送信データ

※ タイプの”I”は入力,”O”は出力,”P”は電源を表しています

第2章 本装置の設置について

2.7 RS-485 インタフェース

■ MODE DIP スイッチによる設定

RS-485 ポートは MODE DIP スイッチにより終端抵抗の ON/OFF、duplex モードを切り替えることができます。

DIP スイッチ				動作モード
1	2	3	4	
ON	OFF	ON	ON	RS-485 (終端抵抗 ON)
OFF	OFF	ON	ON	RS-485 (終端抵抗 OFF)
ON	ON	OFF	OFF	RS-422 (終端抵抗 ON)
OFF	OFF	OFF	OFF	RS-422 (終端抵抗 OFF)

各スイッチにより下記の設定を行います。

DIP スイッチ	設定内容
1	RxD 120Ω 抵抗の ON/OFF
2	TxD 120Ω 抵抗の ON/OFF
3	TxD+ ⇔ RxD+間接続の ON/OFF
4	TxD- ⇔ RxD-間接続の ON/OFF

第2章 本装置の設置について

2.8 LED

本装置には2色(赤/緑)LEDが4個(POWER・STATUS-1~3)実装されています。

LED表示 凡例

消灯：●

緑点灯：●、緑点滅：*

赤点灯：●、赤点滅：*

■ LEDの状態表示内容

LED名	LED表示	状態
POWER	●	電源 OFF
	●	電源 ON
	●	SDカード拡張領域利用中
STATUS 1	●	ブートローダー起動
	*	ブートローダー入力待ち状態(プロンプトメニュー)
	*	Kernel 動作中
STATUS 3	●	出荷状態での起動
	*	シャットダウン処理中

全てのLEDはLED class driverでの実装となっていますので、sysfs I/Fにより任意の動作に変更が可能です。

第2章 本装置の設置について

2.9 DI0

MA-E320/D-16・MA-E350/FD-16にはDI0インタフェースが装備されています。

DI 接点入力、DO 接点出力が各8ch使用できます。

■ 接点入力インタフェース仕様

項目	内容
ポート数	8CH (DIN A0~A3, B0~B3)
コモン	4CH/コモン
入力電圧	DC12V~24V±10% (DC10.8V~26.4V)
入力閾値	ON : DC10V 以上 OFF : DC3V 以下
入力電流	約 2.5mA~5mA
入力インピーダンス	約 6kΩ
入力フィルタ	Through/1ms/5ms/20ms (コモン毎に設定)
ソフト割り込み	チャンネル毎に設定 (立ち上がり・立ち下がりエッジ選択可)
絶縁方式	フォトカプラ絶縁
絶縁耐圧	DC500V 1分間, 外部端子~内部回路間

■ 接点出力インタフェース仕様

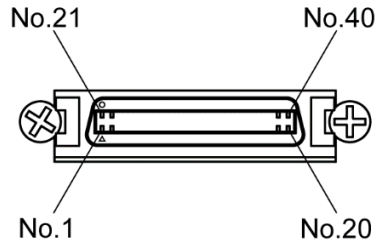
項目	内容
ポート数	8CH (DOUT A0~A3, B0~B3)
コモン	4CH/コモン
負荷電圧	DC26.4V (最大)
負荷電流	50mA (最大)
ON 電圧	DC 1V 以下
OFF 時漏洩電流	0.1mA 以下
保護機能	過電流保護
絶縁方式	フォトカプラ絶縁
絶縁耐圧	DC500V 1分間, 外部端子~内部回路間

第2章 本装置の設置について

2.9 DIO

■ DIO コネクタピン配置

<DIO コネクタ PIN 配置図>

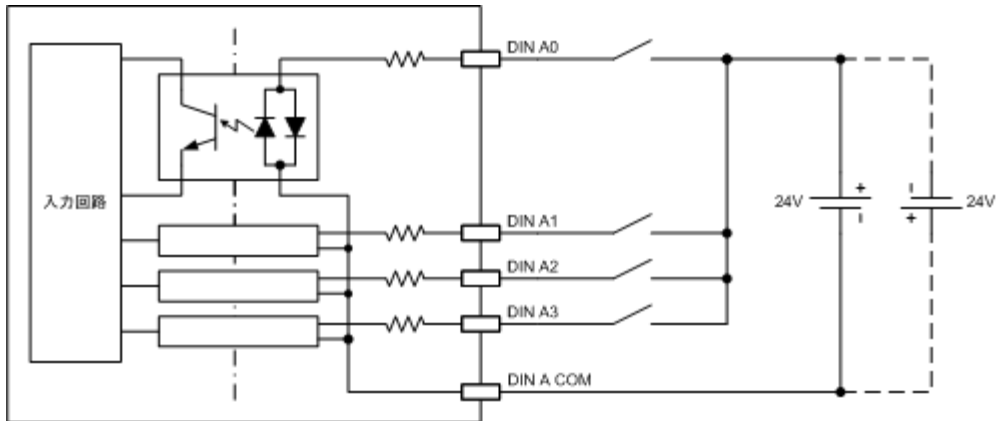


No.	接点出力 グループ	接点出力 ピン名称	機能	No.	接点入力 グループ	接点入力 ピン名称	機能
1	A	NC	未使用	21	A	DIN A COM	コモン A
2		DOUT A0	DO_0	22		DIN A0	port 0
3		DOUT A1	DO_1	23		DIN A1	port 1
4		DOUT A2	DO_2	24		DIN A2	port 2
5		DOUT A3	DO_3	25		DIN A3	port 3
6		DOUT A COM	コモン A	26	B	DIN B COM	コモン B
7		NC	未使用	27		DIN B0	port 4
8		NC	未使用	28		DIN B1	port 5
9		NC	未使用	29		DIN B2	port 6
10		NC	未使用	30		DIN B3	port 7
11	B	NC	未使用	31	-	NC	未使用
12		DOUT B0	DO_4	32		NC	未使用
13		DOUT B1	DO_5	33		NC	未使用
14		DOUT B2	DO_6	34		NC	未使用
15		DOUT B3	DO_7	35		NC	未使用
16		DOUT B COM	コモン B	36	-	NC	未使用
17		NC	未使用	37		NC	未使用
18		NC	未使用	38		NC	未使用
19		NC	未使用	39		NC	未使用
20		NC	未使用	40		NC	未使用

2.9 DI0

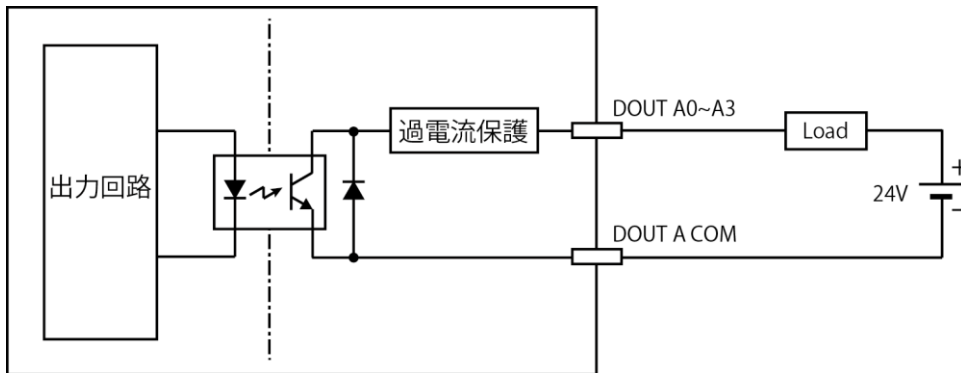
■ 接点入力回路

DI 部はフォトカプラ及び電流制限抵抗により構成される。A 及び B グループ毎に共通コモンとなっている。



■ 接点出力回路

DO 部はフォトカプラ及び過電流保護素子により構成される。A 及び B グループ毎に共通コモンとなっている。



第 3 章

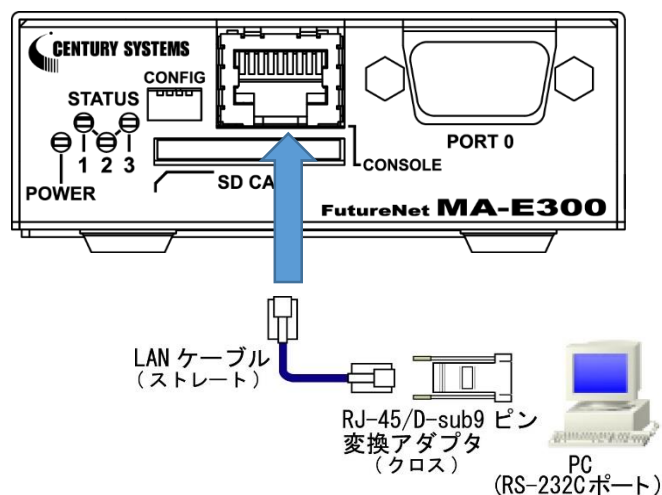
本装置へのログイン

第3章 本装置へのログイン

3.1 コンソールによるログイン

CONSOLE ポートを使用して本装置へログインします。以下の手順で接続します。

◆ 本装置と PC の接続



1. 本装置前面の CONSOLE ポートと、変換アダプタを、LAN ケーブルで接続します。
接続には以下の部品を使用します。
 - ◇ LAN ケーブル(ストレート) : 付属品
 - ◇ RJ-45/D-sub9 ピン変換アダプタ(クロス) : オプション品¹
2. 変換アダプタのコネクタを PC の RS-232C ポートに接続してください。
3. 全ての接続が完了しましたら、本装置と AC アダプタ、AC アダプタとコンセントを接続し、本装置に電源を投入してください。本装置前面の POWER LED が点灯します。

¹ RJ-45 のシリアル変換コネクタをお持ちでない場合、CONFIG DIP スイッチを ON にすることで、PORT0 (DSUB-9) を使用して接続できます。

第3章 本装置へのログイン

3.1 コンソールによるログイン

◆ 本装置へのログイン

1. 本装置を接続したPCで、接続用のターミナルソフト(TeraTerm・putty等)を起動します。
2. RS-232の通信設定を以下のように設定します。

項目	設定値
ボー・レート	115200bps
データ	8bit
パリティ	なし
ストップ	1bit
フロー制御	なし

3. Kernel 起動処理終了後、ログイン画面が表示されます。
4. アカウント、パスワードを入力しログインします。
標準で下記のアカウントが登録されています。

アカウント	パスワード	権限
user1	user1	一般ユーザ
root	root	管理者

第3章 本装置へのログイン

3.2 SSH によるログイン

SSH を使用して本装置へログインします。以下の手順で接続します。

◆ 本装置への接続

1. 本装置の ETHER0 と LAN ケーブル、LAN ケーブルと PC を接続します。
2. 本装置と DC コネクタ、AC アダプタとコンセントを接続し、本装置に電源を投入してください。
本装置前面の POWER LED が点灯します。

◆ 本装置へのログイン

1. LED で Linux Kernel が動作中であることを確認します。(2.5 LED 参照)
2. SSH クライアントソフトウェア (TeraTerm・putty 等) を使用して、本装置の IP アドレスへ接続します。

ETHER0 工場出荷時 IP アドレス : 192.168.253.253

3. アカウント、パスワードを入力しログインします。
標準で下記のアカウントが登録されています。

アカウント	パスワード	権限
user1	user1	一般ユーザ
root	root	管理者

第4章

システムの起動・終了

第 4 章 システムの起動・終了

4.1 システムの起動

本装置には電源スイッチがありません。DC コネクタの抜き差しで電源の ON/OFF を行います。電源を入れれば自動的に Linux が起動します。

4.2 システムの終了

DC コネクタを抜くと電源が切れますが、その前に必ずシャットダウンの手続きをおこなってください。

4.2.1. INIT ボタンによるシャットダウン

本装置は通常稼働中に INIT ボタンが押されるとシャットダウン処理を行います。

◆ INIT ボタンによる終了手順

1. LED で Linux Kernel が動作中であることを確認します。
2. INIT ボタンを 2 秒以上押下してとシャットダウン処理を開始します。
STATUS1 LED が点滅していることを確認します。
3. シャットダウン完了後、STATUS LED が全て消灯します。確認 DC コネクタを抜き電源を OFF にしてください。

4.2.2. コマンド実行によるシャットダウン

コンソール、SSH により本装置にログインしシャットダウン処理を行います。

◆ コマンドによる終了手順

1. 本装置にログインします。
2. shutdown コマンドを実行し、シャットダウン処理を開始します。
STATUS1 LED が点滅していることを確認します。

■ shutdown コマンド実行例

```
root@MAE3xx:~# shutdown -h now
```

3. シャットダウン完了後、STATUS LED が全て消灯します。確認後 DC コネクタを抜き電源を OFF にしてください。

第 5 章

設定について

5.1 出荷時設定情報

◆ コンソール、SSH ログインアカウント

アカウント	パスワード	権限
user1	user1	一般ユーザ
root	root	管理者

◆ IP アドレス

ポート	IP アドレス	ネットマスク
ETHER0	192.168.253.253	255.255.255.0
ETHER1	192.168.254.254	255.255.255.0

5.2 設定の初期化

5.2.1. 工場出荷状態での起動

INIT ボタンを押しながら起動することで、工場出荷時のファームウェアのみで起動することができます。

◆ 工場出荷状態での起動手順

1. INIT ボタンを押しながら電源を投入します。
2. 工場出荷時状態で起動処理を開始すると、STATUS3 LED が緑色点灯しますので確認してください。
3. 起動完了すると STATUS3 LED が消灯し、STATUS1 LED が赤点滅します。

5.2.2. 変更内容の消去

工場出荷時状態で起動しても設定やインストールしたソフトウェア等の変更内容は消去していませんので、次回通常起動した場合変更内容が反映された状態で起動します。

変更内容を完全に消去したい場合は下記の手順で行ってください、以降通常起動した場合も工場出荷時状態で起動します。

◆ 変更内容の消去手順

1. 本装置にログインします。
2. `/rw.tmpfs/.overlay` にあるファイルを削除します。

■ 変更内容消去実行例

```
user1@MAE3XX:~$ ls -l /rw.tmpfs/.overlay/
total 448
-rw-r--r-- 1 root root 1060 Mar 25 12:11 overlays_etc.tar.xz
-rw-r--r-- 1 root root 8044 Mar 25 12:11 overlays_home.tar.xz
-rw-r--r-- 1 root root 30860 Mar 25 12:11 overlays_log.tar.xz
-rw-r--r-- 1 root root 413032 Mar 25 09:25 overlays_other.tar.xz
user1@MAE3XX:~$ sudo rm /rw.tmpfs/.overlay/overlays_*
[sudo] password for user1:
user1@MAE3XX:~$ ls -l /rw.tmpfs/.overlay/
total 0
```

第 6 章

ファームウェア更新

第6章 ファームウェア更新

6.1 ファームウェアについて

本装置は通常起動用のファームウェアを2面（AREA0・AERA1に保存）持つことができます。

使用するファームウェアを切り替えることにより、障害発生時のファームウェアの切り戻しや、ファームウェアの動作比較が容易に行えます。

通常は最後に更新したファームウェアを使用して起動します。

6.1.1. ファームウェアバージョン確認

コマンドにより現在起動しているファームウェアのバージョンを確認することができます

◆ ファームウェアバージョン確認手順

1. 本装置にログインします。
2. `/etc/version` を参照します。

■ ファームウェアバージョン確認実行例

```
user1@MAE3XX:~$ cat /etc/version
MA-E320 firmware version 1.0.0 (Tue Mar 11 13:41:05 JST 2014)
```


第6章 ファームウェア更新

6.1 ファームウェアについて

6.1.2 起動ファームウェアの切り替え

コマンドにより現在起動しているファームウェアの確認、次回起動に使用するファームウェアを設定することができます。

◆ 起動ファームウェア確認・切り替え手順

1. 本装置にログインします
2. “switch_area” コマンドを実行します。
”-p” オプションをつけてコマンドを実行することで、現在起動しているファームウェアの状態を確認することができます。

表記	内容
LATEST	最後に更新したファームウェアのエリア
OLD	旧ファームウェアのエリア
NOW	現在どちらのエリアに保存されたファームウェアで起動しているか
switch boot from AREAX to AREAX	切り替えを実行した場合、どちらのエリアに保存したファームウェアで起動するように設定されるか

■ 起動ファームウェア確認・切り替え実行例

```
user1@MAE3XXm:~$ sudo switch_area -p
== firmware information ==
LATEST: AREA0
OLD:     AREA1
NOW:     AREA0
switch boot from AREA0 to AREA1
user1@MAE3XXm:~$ sudo switch_area
```

6.2 ファームウェア更新

本装置のファームウェアを更新します。SD カードやファイル転送で本装置にファームウェアファイルを配置し、コマンドを実行することでファームウェアのアップデートができます。

ファームウェアの更新を行っても、設定変更やインストールパッケージ等の変更内容は失われません。

6.2.1. SD カードを使用したファームウェア更新

ファームウェアファイルを書き込んだ SD カードを本装置に挿入し、ファームウェアの更新を行います。

◆ SD カードを使用したファームウェア更新手順

1. FAT でフォーマットされた SD カードにファームウェアファイルをコピーして本装置に挿入し、電源を投入します。
2. 自動起動待ちのプロンプトが表示されたら即 Enter キーを入力し、自動起動を停止させます。

■ 自動起動待ちのプロンプト表示例

```
barebox 2013.12.0-00316-g4095a93 #487 Thu Mar 6 15:54:40 JST 2014

Board: plum-ma[512MiB]
nand: ONFI param page 0 valid
nand: ONFI flash detected
nand: NAND device: Manufacturer ID: 0x01, Chip ID: 0xda (AMD/Spansion
S34ML02G1), 256MiB, page size: 2048, 00B

UBI: max/mean erase counter: 10/7, WL threshold: 4096, image sequence
number: 7535
UBI: available PEBs: 0, total reserved PEBs: 2040, PEBs reserved for
bad PEB handling: 40

Hit m for menu or any other key to stop autoboot: 1

type exit to get to the menu
barebox@plum-ma[512MiB]:/
```

6.2 ファームウェア更新

3. SD カードは自動的に /boot にマウントされるので、SD カードにコピーしたファームウェアファイルを指定して “firmup” コマンドを実行します。

■ firmup コマンド実行例

```
barebox@plum-ma[512MiB]:/ firmup /boot/firmware.img
### MA-E3xx series firmware updater
firm area to write: 1
firm_dual:          1
* image file for "kernel" found.
  copying kernel image to /dev/ubi0.kernel.1 ...
* image file for "kmod" found.
  copying kmod image to /dev/ubi0.kmod.1 ...
* image file for "initramfs" found.
  copying initramfs image to /dev/ubi0.initramfs.1 ...
* image file for "rootfs" found.
  copying rootfs image to /dev/ubi0.rootfs.1 ...
* image file for "dtb" found.
  erasing /dev/spi.dtb.1 ...
  copying dtb(DeviceTree) image to /dev/spi.dtb.1 ...
* image file for "barebox.bin" found.
  erasing /dev/spi.barebox ...
  copying barebox image to /dev/spi.barebox ...
  erasing barebox environments (/dev/env0) ...
update finished.
```

4. ファームウェアの更新は完了しました、‘boot’ コマンドを実行すると新しいファームウェアで起動します。

6.2 ファームウェア更新

6.2.2 ファイル転送によるファームウェア更新

scp や sftp で本装置にファームウェアファイルを転送し、ファームウェアの更新を行います。

◆ ファイル転送によるファームウェア更新手順

1. scp や sftp 等で本装置にファームウェアファイルを転送します。
2. root 権限で “firmup” コマンドを実行します。

■ firmup コマンド実行例

```
root@MAE3xx:~# firmup /tmp/firmware.img
### MA-E3xx series firmware update utility (for 2-area firmware).
Updating AREA: 0 ...
* image file for kernel found.
  writing "kernel" image to /dev/mtdblock2 ... succeeded.
* image file for kmod found.
  writing "kmod" image to /dev/mtdblock6 ... succeeded.
* image file for initramfs found.
  writing "initramfs" image to /dev/mtdblock4 ... succeeded.
* image file for rootfs found.
  writing "rootfs" image to /dev/mtdblock8 ... succeeded.
* DTB file found.
  writing "dtb" image to /dev/mtd15 ... succeeded.
* Bootloader file found.
  writing "barebox.bin" image to /dev/mtd13 ... succeeded.
Succeeded.
```

6.2 ファームウェア更新

“firmup” コマンドではパラメータで書き込みエリアを指定することで、ファームウェアの更新エリアが選択できます。

パラメータ	書き込みエリア
0	AREA0
1	AREA1
c	現在使用中のエリア
o	現在使用していないエリア

■ firmup コマンド書式

```
user1@MAE3XX:~$ sudo firmup --help
[sudo] password for user1:
### MA-E3xx series firmware update utility (for 2-area firmware).
usage: firmup <firmware_file> [0|1|c|o]
update area selection:
  0/1 : area0/area1
  c   : current
  o   : other
```

3. ファームウェアの更新は完了しました。次回起動時から更新したファームウェアで起動します。

6.3 ファームウェア作成

本装置では実機によるファームウェアの作成が可能です。

本装置を通常起動後、パッケージのインストール、お客様開発アプリケーションの追加、設定の変更等の変更内容を反映したファームウェアを作成することができます。

◆ ファームウェア作成手順

1. 通常起動しパッケージの追加、設定変更等の変更を行います。
2. “generate_firm” コマンドを実行しファームウェアの作成を開始します。
ファームウェアの作成が完了するまで15分程度かかります。

■ “generate_firm” コマンド実行例

```
root@plum:~# generate_firm
## MA-E3xx series firmware generater
* creating new rootfs image...
Parallel mksquashfs: Using 1 processor
Creating 4.0 filesystem on /tmp/.new_firm/rootfs.img, block size 1048576.
[=====¥] 13339/13339 100%
Exportable Squashfs 4.0 filesystem, xz compressed, data block size 1048576
      compressed data, compressed metadata, compressed fragments,
compressed xattrs
      duplicates are removed
Filesystem size 55919.81 Kbytes (54.61 Mbytes)
      25.28% of uncompressed filesystem size (221230.86 Kbytes)
Inode table size 166498 bytes (162.60 Kbytes)
      24.13% of uncompressed inode table size (689933 bytes)
Directory table size 161736 bytes (157.95 Kbytes)
      41.84% of uncompressed directory table size (386574 bytes)
Number of duplicate files found 487
Number of inodes 19004
Number of files 13329
Number of fragments 144
done.
```

6.3 ファームウェア作成

```
rootfs.img size: 57262080 [bytes]
rootfs mtd size: 83994624 [bytes]
* Kernel module (kmod) image found.
* JRE (opt) image found.
* mtd area of 'kernel' found (/dev/mtdblock3)
* mtd area of 'initramfs' found (/dev/mtdblock5)
* mtd area of 'dtb' found (/dev/mtdblock16)
New firmware file: /tmp/new_firmware.img generated, content is...
Archive: /tmp/new_firmware.img
Length  Method  Size Cmpr  Date   Time   CRC-32  Name
-----  -
4257792  Stored  4257792  0%  2014-03-19  12:05  a4427123  kernel.img
 440320  Stored  440320  0%  2014-03-19  12:05  e6eab733  kmod.img
2193408  Stored  2193408  0%  2014-03-19  12:05  cd57f3c6  initramfs.img
57262080  Stored  57262080  0%  2014-03-19  12:05  ebd41c20  rootfs.img
21719040  Stored  21719040  0%  2014-03-19  12:05  0e9b5556  opt.img
 131072  Defl:N    8235  94%  2014-03-19  12:05  f4cebbc9  dtb.img
-----  -
86003712      85880875  0%                6 files
```

3. ファームウェアの作成が完了しました。

/tmp の下に new_firmware.img ファイルが作成されます。

作成したファームウェアのバージョンは元のバージョン名の末尾に「+」が付加されたものになります。

例) 元のファームウェアバージョン : MA-E320 firmware version 1.0.0
作成したファームウェアバージョン : MA-E320 firmware version 1.0.0+

FutureNet MA-E300 シリーズ ユーザズガイド Ver. 1.1.0

2014年5月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

Copyright© 2014 Century Systems Co., Ltd. All rights reserved.
